

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191900065		
法人名	株式会社ユニマツトそよ風		
事業所名	戸田ケアコミュニティそよ風		
所在地	埼玉県戸田市氷川町2-16-23		
自己評価作成日	平成26年3月2日	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=1191900065-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 埼玉県介護支援専門員協会		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区仲町2-13-8 ほまれ会館3階		
訪問調査日	平成26年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の状態等の変化に際し担当者会議を開催し職員間で話し合い、文書等でケアの統一を図っています。ケアプランの見直し時期には文書でご家族様の意向を頂く様にしており、意見箱を設置しご家族様のご意見を随時頂く体制を取っております。その他、面会時や時には電話を利用し相談や報告をしております。運営推進会議を基本平日に開催し、行政の方、町会の方の参加も増えております。「家族会」を開催し、ご家族様同士の交流を図っております。日々屋外への散歩と館内での散歩を体操とは別に取り入れ、不足しがちな運動をして頂ける様体制を取っております。昼食や夕食の調理にも参加をして頂き、ご利用者様個々の出来る範囲で作業をして頂いております。日中、入居者様はお部屋に戻らず、リビングで過ごされる方が殆どです。日々沢山の笑顔を頂くのを目標に職員一同努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣にある食品スーパーや寺院境内、公園、クリニック(同一敷地内)、保育所(同一ビル)などを利用者の生活に上手に取り入れ、地域との交流にも役立っている。また、介護事業大手の法人の事業所であり、理念、方針が明示され、職員の意識向上や日常業務に生かされている。この法人の特徴を生かし、他事業所との情報交換、事例共有があり、利用者の生活支援力の向上に結びついている。開設6年目に入り利用者の重度化がすすむ中、職員が一体となり利用者個別の状況や要望に対応した支援が多く見られ、利用者本人や家族の満足度向上に結びついている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「そこにそよ風があるから」をモットーにご入居者様の沢山の笑顔を頂ける様な介護を目指している。その為に医療・職員間の情報の共有に努め、安心できる環境づくりを行っている。	基本理念を毎朝礼時に唱和し、会議等でも責任者から必ず話されており、多角度から職員に徹底、動機付けが行なわれ、あるべき姿を目指した生活支援実践に役立っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各科の病院受診、美容院等極力、住診や訪問等は使用せず、地域のサービスを受けられるように対応している。買い物も隣接するスーパー、コンビニを利用し、図書館や福祉センターの催し物に出かけ公共の施設も利用している	隣接するスーパーへの買い物、クリニック受診、理容店、図書館などへよく出かけ、地域の一員として地域の皆さんと交流し、かつ社会とのふれあいを深めることができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括を通じ認知症サポーター養成講座を開催したが定期的とはなっていない現状である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催出来ている。ご家族様へ現状の報告、ご希望等をお聞きして業務改善に取り入れている。行政の方の出席もあり直接、ご家族様からの意見等を行政の方が聴くという場面も増えている。	定期開催し事業所からの諸連絡、家族からの意見、要望などをサービス改善に生かすことができている。不定期ながら町会からの参加もいただいている。会議では多くの意見が出るような雰囲気醸成にも努めている。	今後について、運営推進会議に毎回町会長または他役員が交代でも気軽に参加いただけるような具体的な働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入居状況の報告を担当者に継続して行っている。その他、疑問、相談等はすぐに行ける関係作りは出来ている。	市の担当者へ、毎月の入居状況(空き状況)をメールで、運営推進会議議事録は窓口に持参し報告している。その際いろいろな情報交換や助言、指導を頂くこともある。介護相談員の訪問も隔月2名受けていて、利用者の要望などをお聞きしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族了承の下(同意書)入口、居室の外窓の施錠を行っている。運営推進会議で協議、施設の立地条件も踏まえて、玄関などの開錠には同意を得られなかった。施設内で拘束廃止委員会を設置している。	ホーム入口は万一利用者が無断外出した場合の事故未然防止の為、家族からの強い要望もあり安全最優先とし常時施錠している。施設内合同の身体拘束廃止委員会も定期開催され、介護現場にもその精神は十分浸透している。	ホーム入り口は、施設全体の課題として昼間帯だけでも開錠の可能性を検討することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し身体拘束同様職員に向け研修会を開催した。グループ内だけでなく施設全体で不適切な声かけとはどういったことか等話し合っている。不適切な声かけや対応あった場合はその都度職員に注意指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を修了している。今年度より新しく後見人制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「ご利用のしおり」等を使用し、契約書・重要事項説明書を分かり易く説明を行っている。解約時も同様に行っている。改定等があった場合はその都度、文書や口頭で説明を行い「同意書」を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情に関するお知らせ」をフロア内に掲示し案内をしている。運営推進会議、アンケートを実施してご家族様の要望を聴きし業務改善などに生かしている。	あらゆる機会を通じ、利用者・家族の苦情、意向を聞きサービス改善、満足度向上に結び付けている。利用者、家族との日常会話からも「本音部分」を見出すように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回グループホーム会議を開催し職員同士意見を述べる機会を設けている。改善点等はそこで決定し変更するようにしている。各ユニットにリーダーを設置し全ての職員の意見を聴く機会を設けている。	会議等での意見はもとより、ユニットリーダー中心に職員個々の意見吸い上げも行なうようにし、サービス改善に結び付けている。「ほぼ全員の職員が生き生きと働いている」とのアンケート結果に裏づけされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定、実績を把握している。本人の意見等、随時聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があった時に職員に参加を促し、研修を受けた職員からの伝達研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の運営推進会議や研修会に参加をさせて頂いたが、時間が取れないのが現状である。市主催の管理者研修で情報交換をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅に訪問しご本人に面接を行い、身体状況、精神的な部分まで聞き取りをさせて頂いている。入所当初はご本人の言動に留意し、ご家族様に相談をさせて頂いて介護に当たる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、ご本人とは別室でご家族様との面談を行っている。サービスが適切に提供できる様、面会時や電話等を利用しお話を聴く様にして不安の緩和に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明を行っている。対応が出来る事、出来ない事ははっきりとお伝えする様にしている。他のサービスを求められたら施設等の案内もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る事はご自分で頂く様にしている。一人ひとり現状で出来る範囲内での役割を持って頂ける様心がけている。一緒に食事やお茶を頂きながらご利用者様のお話を聞く様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時、又は電話を利用し相談、報告をしている。ご家族からのご意見、指示を頂く事もある。外出などお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	図書館へは定期的に出かけている。以前住んでいた町会の方が訪ねてこられたり、遠方に住んでいるご家族から電話や手紙を頂く事もあり、定期的に来館されるご家族様には、施設内に宿泊場所の提供をしている。	利用者の身体機能に合わせ、年賀状や暑中見舞い作成支援を行い、馴染みの人との交流が継続できるようにしている。また、入居前から利用の図書館、クリニック利用も希望があれば継続利用できるよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う合わないを職員が把握し、散歩や食事席等の配置をしている。ご利用者様の間に職員が入り作業等を通じご利用者様同士関わりが出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡をしてご家族を通して相談等に応じている。退居をされたご家族様より電話連絡や訪問等あり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話が出来る方には直接お話を聴いている。お話が出来ない方に対しては普段の言動から拾い出したり、ご家族様にご協力を頂き、ご本人の意向を拾い出し担当者会議等で職員と検討を行っている。	ケアプラン見直し時には、特に家族の思いや意向を書類で確認している。また、利用者との日常会話や家族面会時や電話での会話の中からも把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の訪問調査より生活歴や性格等の聞き取りをご本人やご家族より頂いている。入所判定会議においてまた、入居直前にも職員に説明を行っている。入所後もご家族様との会話の中で色々教えて頂き、担当者会議で職員に伝達を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ動いて頂ける様に個別にお声かけを行っている。掃除、洗濯、調理など部分的だけでも参加できる様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人を交えた担当者会議は開催できていないのが現状である。ご家族様には文書を送付し意見を頂く様にしている。職員には適宜担当者会議を開催し、評価や課題点を話し合いプランに反映させている。	家族、職員、医療機関などと連携した評価や課題検討を居室担当中心に行い、プランに反映させており、現状にあったプランの作成ができています。担当者会議は居室担当勤務日に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況を個別に記録し、朝夕の申し送り、また、申し送りノートを利用し職員間での情報の共有化を図り、プランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスや有料老人ホーム主催のボランティアの方々の慰問にはほぼ全員の方で参加をさせて頂いている。反対にグループホーム主催の催し物、ボランティアの慰問には他部署をご利用の方々に参加を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の意向で月に1回図書館へ出かけている。近隣の福祉センターでの催し物に出かけて行ったり、市内の施設へ外出レクとして出かけて行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に今後のかかりつけ医に関しては納得を頂いている。定期受診時にご本人の状態を把握報告している。状態に異変が生じた場合には電話や直接医師に相談をして指示や助言を受けている。	入居後も利用者、ご家族の希望があれば入居前のかかりつけ医に受診できるように支援している。 現状はほとんどの利用者が、同一敷地内の24時間対応のクリニックを利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師を月に4回導入した。訪問日にご入居者様の状態を報告。訪問日や電話で相談をして、随時指示を受けたり、主治医に繋いで往診や受診を受けられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ介護サマリーを提出。病院の相談員、看護スタッフを通じ入院中の状態の把握、退院の目途等を聴取する。 退院が決まると計画作成担当者が再度、面接を行なっている。協力病院を中心に関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は終末期の方はいない。入所前より終末期の介護について説明をしている。また、認知症が進行してきた方についてはご家族に随時相談をさせて頂いている。ご家族様には重度化に向けた指針を文書で出し同意を頂いている。	開設以来看取りはなかった。介護職人材が十分でない現状の中で、難しい点があるが、職員からも今後の取り組み意見もあり、事業所内で机上のターミナル勉強会開催を検討している。また、重度化に対応し訪問看護を月4回受けている。	看取りは国の指針にもあり、ターミナル勉強会開催がより確実になるような取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルはできているが全職員が対応できるところまでは現在も至っていない。 消防署による研修会を受けたが、全員とは至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署による避難訓練を施設全体で行った。グループホームでは避難経路を職員全員に伝達済みである。ご家族様のご協力方法の検討。また、町会から有事の際の一時避難所として依頼があった。	年2回避難訓練を施設全体で行っている。今般町会から有事の際の避難場所として施設提供依頼があり、今後避難訓練の際には町会の皆さんの参加要請も検討している。地域ぐるみの避難訓練を目指している。	今後の避難訓練には、地域住民に避難場所紹介の見地からも、地域住民が参加できるような町会への働きかけなど、施設の取組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは会議等で話し合ったり、日々の業務申し送り等で注意を呼び掛け、ご利用者様に失礼の無い様心がけている。不適切な声かけがあった場合にはその都度注意をしている。記録では他の入居者様はアルファベットを使用して記録をしている。	声かけは名前ではなく苗字で呼ぶこと等を全員で心掛けている。常に話し合いをし、適切でない言葉遣いに気づいたらお互いに注意している。また、プライバシーを守る為居室のドアは必ず閉めておく等の配慮も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをお誘いする時は必ず、ご本人の意思確認を行っている。買い物の際や毎日のお茶の時間にお好きなものを選択して頂く様にしている。テレビ番組などの選択もして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いする事の無い様にしている。日課に沿ってはいるが、入居者様の体調を考慮して臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設内で髪染めをしたり、時々お化粧をしたりしておしゃれを楽しんで頂ける様にしている。継続的にご本人の希望される化粧品を買いに出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、配膳、みそ汁の味見等をして頂いている。時には調理にも参加をして頂いている。食事の好みはご本人やご家族に確認をして嫌いなものは出来るだけ他のものと変更する様にしている。おやつ作りもしている。	ホーム台所で職員が調理し、手づくりでできたものを提供している。味見や盛り付け洗い物などできる事は手伝って貰っている。献立もなるべく皆の好みの物にするようにし、食事が楽しみとなるように工夫している	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量、水分の摂取量の記録を行っている。好みのお茶や飲み物を提供している。食事等の摂取量は随時、施設内の栄養士、主治医に相談し助言を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い口腔ケアを行っている。ご自分で出来る方はご自身で頂き、介助が必要な方にはその方の状態に合わせて介助を行っている。夕食後、義歯洗浄剤を使用し洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄のパターンを把握している。その他、ご本人の合図を見逃さない様にしてトイレ誘導を行っている。夜間もその方の状態に合わせてトイレ誘導を行っている。随時担当者会議を開催し対応を検討している。	排泄パターンをつかみ、一人ひとりに合った声かけや誘導を行い、なるべく紙おむつを使わないようにしている。昼も夜も自力でトイレ使用できるような対応を心掛けている。現在紙おむつ使用の利用者は3人と少ない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用い排便の状況を把握している。毎朝、牛乳やヨーグルトの提供。果物等の提供。水分補給には手作りゼリーの提供。水分摂取量のチェックをしている。散歩や体操で運動をして頂く様促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調に合わせ、意思確認を行っている。入浴の開始時間は決めているが、ご本人の希望に合わせてゆっくりと入浴して頂ける様にしている。入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯にも入浴して頂いている。	週3日を入浴日と決めて、その日はゆっくり入浴して頂いている。その人の状態に合わせて一人で入浴してもらったり、2人介助にするなど安全に入浴できるようにしている。入浴日以外にも希望があれば自由に入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は入居者様個々で決めて頂いている。眠くなるまでリビングで過ごされていたり、ご自分で決められた時間で就寝されている。夕食後、自室でテレビを見たり、読書をされたりしてご自身の時間を過ごされている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を個人のファイルに綴じてあるが、職員全員の理解は得られていない。その為、受診前、医師へ報告する事、受診後、医師からの助言等を報告書を用いて朝夕の申し送り時に伝達を行っている。また、個人用の服薬管理表とチェック表を作成し確実に服薬して頂けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をお一人お一人持って頂けるようプランに挙げ支援をしている。趣味などもご家族にご相談の上生活の中に取り入れる様工夫をしている。気分転換には散歩、買い物等に出かけて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	集団ではなく個別の対応で散歩や買い物に出かけている。入居者様の希望で図書館、福祉センターの催し物に出かけられる様にしている。ご家族とも外食や美容院に出かけられている。地域の方の協力は得られていない。	天気の良い日には、近くの寺院境内や公園に散歩に出かけている。希望があれば、一緒に図書館へ本を借りに行ったりもしている。晴れていなくてもドライブで車の中から景色を楽しむなど、外出の機会をできるだけ多く作るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に予め了解を得て小銭を持って頂く事は可能としている。お預かりしているお金で希望があれば買い物に出かけ、出かける前にお金をお渡しし、好きなものを選び支払いをご自身でして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	予めご家族に了承を得て制限を設けていない。ご本人の希望時電話番号を押すなどの支援、又は電話の取り次ぎを行っている。暑中見舞い、年賀状など書ける方にはお名前などを書いて頂いたり、代筆などの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁面の装飾を変えたり、入居者の方がに作って頂いている。季節の行事も取り入れている。室温もエアコンをこまめに調整し寒かったり、暑かったりしない様にしている。	心地よく、ゆったりと座れるソファや椅子がホールにあるので、みんなで談笑したり、一人で音楽を聴いたりして過ごしている。廊下や床には、余分なものがなくすっきりしており、車椅子の利用者も通りやすい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブル他、ソファも用意して気の合った者同士会話が楽しめる様にしている。ソファも一人掛けのものもあり一人で過ごせるような配置にしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは自宅で使用されていたものを持参して頂くよう促している。ご自宅での生活様式を出来るだけ変えない様にしている。仏壇やタンス等持ちこまれて毎朝手を合わせている方もいる。	家で布団利用だった人はベッドではなく布団を使ってもらうなど、それぞれの人の希望に沿うようにしている。また仏壇や使い慣れたタンスを持ち込むなども、自由にしてもらっている。好みのじゅうたんを敷いている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー構造となっている。「できること」の支援は担当者会議等で職員間で話し合い情報の共有化を図っている。作業の工程を細かくしてできることを職員と一緒に見つけたり、事故の無い様見守りや一緒に作業をしたりしている。過剰な介護はしない様にしている。		

目標達成計画

作成日: 平成 26年 3月 23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	地域より有事(水害)の際には一時避難所との意向があるが、防災訓練などには地域の方の参加は得られていない。	地域ぐるみの避難訓練が定期的に行われる。	①町会から地域住民への呼び掛けを提案。 ②施設より地域の消防団・近隣の商店へ避難訓練の参加呼びかけ	12ヶ月
2	3	運営推進会議に町会からの参加が毎回得られていない。	運営推進会議に町会からの参加者を毎回得られる。	①町会へのお知らせの配布の継続。 ②近隣の商店にもお知らせを配布	12ヶ月
3	12	ご入居者が重度化される中、今後看取りに向けた体制作りが必要となっている。	ご家族様から看取りのご依頼があった場合に必要な体制が取れるようにする。	①研修の実施。 ※社内外の研修を受け、スタッフ全員に対し研修を行う。 ②医療との連携を密にして行く。	12ヶ月
4	5	現在、入口・居室の施錠をしている。開錠についてはご家族様から強い反対を受けた。これも、拘束にある事をご理解頂けていない。	拘束についてご家族様にご理解を頂き、開錠できる時間を模索する	①施設内でご家族様にも研修会を開催する。 ②開錠できる時間の模索 ③施設全体に研修・通達を行い協力体制を構築する。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。